

# 教員採用試験学習モデル計画

	【3年次】8月～12月	1月～3月	4月～6月	7月
	<b>基礎力養成期</b>	<b>実力養成期</b>	<b>直前対策期</b>	<b>本試験</b>
<b>教職教養</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい教育問題に関心をもとう。</li> <li>●教職科目のテキスト、学習指導要領を見直そう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職教養の対象となる全領域・全分野について参考書で確認する。出題範囲の把握が大切な時期。『教職教養の頻出問題』（時事通信社）『教職ランナー』（一ツ橋書店）『生徒指導の手引き（原理編）』（「時事通信社・内外教育研究会発行」）の最新年度版『学習指導要領』（文部科学省）などを利用しよう。</li> <li>●受験する県の実施問題を分析する。過去3年の県別出題分析による出題傾向の把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いじめ、不登校、学級崩壊、非行などの指導に関する知識を身につけること。</li> <li>●実施問題の分析結果による弱点領域・分野の復習と補強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育実習期間中は一切できない。</li> <li>●引き続き、頻出領域・分野の問題演習の取り組みをしよう。</li> <li>●ノートの見直しと、さらなる内容の充実。教育法規や学習指導要領、答申など、暗記が必要な内容の早期マスターはとにかく繰り返し学習しよう。</li> </ul>
	<p>来年の試験まで、学習計画を立てよう。</p>	<p><b>各都道府県・市の学校教育方針をネット（教育委員会HP）で検索</b></p>		<p>「教職教養」の出題の変化が激しい。より実践的な出題が増えています。</p>
<b>一般教養</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●センターの実施問題集で志望県の出題傾向を分析しよう。</li> <li>『一般教養の実施問題』（時事通信社）</li> <li>『各県教員試験対策シリーズ』（協同出版）</li> <li>●専門科目の基礎・基本を確実に身につけよう。</li> <li>●理数分野は早めに準備を進めよう。高校の理科基礎科目と数学Ⅰまでは確実に目を通し基礎事項を確認しよう。月刊誌『教員養成セミナー』『教職課程』等の一般教養の連載を活用しよう。</li> </ul> <p>※教職センターにあります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●志望県の最新の実施問題を分析する。出題傾向に変化がないか確認しよう。</li> </ul> <p>時事問題はこの時期から翌年の試験本番までをチェックしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●志望県の出題パターンに合った問題演習を繰り返す！</li> <li>●苦手意識の掃蕩を！解けない、分からない、ならば「基礎・基本」に立ち返る。</li> <li>●公開模擬試験（学内模擬試験）に参加すること。客観的な実力判定ができ、その後の試験対策に有効。教職センターには募集案内があります。</li> </ul>	
<b>専門教養</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受験教科の中高教科書、参考書をマスターしよう。</li> <li>●中高とも学習指導要領の「各教科」および学習指導要領の該当教科の「解説」書を精読しよう。学習指導要領と指導法対策には必須の条件です。</li> <li>●英語は英検準1級以上をめざし、年3回のテストは必ず受けよう！（1級合格者は専門教養試験が免除されるときもあります。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●出題傾向に沿って徹底した問題演習。</li> <li>できないところは「教職ノート」の作成を。弱点と苦手の克服がポイント。</li> <li>●学習指導要領とその「解説」書は、一覧表にしよう。</li> </ul>		
<b>一般時事・教育時事</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去1年間の大きな出来事を把握。インターネットの活用が有効。</li> <li>時事問題：国際情勢、政治・経済、情報関連、環境、医療、福祉など。</li> <li>特に、教育時事：教育答申類、子どもをめぐる事件など。『朝日キーワード』『時事ニュースワード』『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』など。教育法規よりも教育時事問題が多く出題されます。</li> </ul>			
<b>論作文</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●出題される論作文のテーマは教職論・教育論・生徒指導・学習指導に分けることができます。各都道府県によって傾向は異なりますが、あらゆるテーマに対応できるよう練習しましょう。</li> <li>●課題について、何を求められているのかをつかむことが重要です。課題に関する解決・対処を考えるだけでなく、課題となった背景についても考える必要があります。そのためには、日ごろから問題意識を持つことが大切です。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去の「出題テーマ」を調べて、テーマの傾向に合わせて練習。志望県の制限字数、時間、形式に合わせて何度も書いてみる。書いたら添削を受けよう。</li> <li>●良い答案例を参考に、題意のとらえ方や書き方のポイントを体得しよう。</li> </ul>	
<b>面接</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しっかりとした教育観、児童・生徒観をもてるようにしておこう。</li> <li>●ボランティアやクラブ・部活動の経験を生かして自己アピールを述べられるようにしましょう。</li> <li>●自己アピール文は3点書けるか。その根拠を説明する。</li> <li>●自分の書いた論作文を教職センターの先生に添削してもらおう。模擬面接も受けること。</li> <li>●特技やクラブ活動歴など〇〇年間活動したことを把握、役職や大会名などを言えるようにしておくこと。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●面接ノートの作成。</li> <li>(1) 特色について知っておこう。教育目標、そのキャッチフレーズ、県の重要施策（県の最大課題）、各都道府県みんなこととなります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●面接ノートの作成</li> <li>(2) 志望動機、志望県受験理由、長所と短所、教育観、指導観、教育実習体験、ボランティア、部活動歴など。具体的に説明できるように</li> <li>(3) 傾向に合わせた「模擬面接」を実際に受ける。集団討論、個人面接、自己PR、模擬授業などの指導を試験直前に実施しているので、必ず参加しよう。（配布プリントあります。）</li> </ul>

7月の第1日曜日から試験開始